

**製品名: SESN1 (2D5) ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe17771**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,FC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,FC 1:100-1:500
分子量	57kDa

**抗原情報**

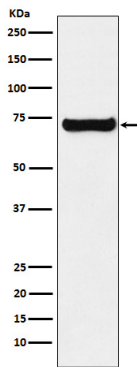
遺伝子名	SESN1
別名	PA26; sesn1; SEST1; sestrin 1;
遺伝子 ID	27244.0
SwissProt ID	Q9Y6P5
免疫原	ヒト SESN1 の合成ペプチド

**背景**

ペルオキシレドキシンの還元に関与する。細胞増殖の調節因子でもある可能性がある。細胞内ロイシンセンサーとして機能し、GATOR 複合体を介して TORC1 シグナル伝達経路を負に制御する。ロイシンが存在しない状態では、GATOR サブ複合体 GATOR2 に結合し、TORC1 シグナル伝達を阻害する。SESN2 へのロイシンの結合は、GATOR2 との相互作用を阻害し、TORC1 シグナル伝達経路を活性化する (PubMed:25263562、PubMed:26449471)。このストレス誘導性代謝調節因子は、酸化ストレスおよび遺伝毒性ストレスに対する防御においても役割を果たす可能性がある (類似性による)。SQSTM1 を介した KEAP1 のオートファジー分解を促進することにより、NFE2L2 による酸化ストレス応答に関与する遺伝子の転写を正に制御する可能性がある (PubMed:23274085)。さらに、タンパク質の N 末端ドメインに由来するアルキルヒドロペルオキシド還元酵素活性を介して、活性酸素種 (ROS) の蓄積を抑制する可能性もある (類似性による)。当初、PRDX1 を減少させることで酸化ストレス耐性に寄与することが報告されていた (PubMed:15105503)。しかし、これは確認できなかった (類似性による)。

## 研究分野

## 画像データ



K562 細胞溶解物における SESN1 発現のウエスタンブロット解析。